

R05年度学校関係者評価(小学校)

学校評価(小学校)

教育目標(誠実な人、良き社会人の育成)

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	学校としての反省・改善策	評価点	意見等
1	教育目標	A	校訓である「清い心・たゆめ努力」を達成するために、教育活動全般において「あたたかな思いやりと活気に満ちた明るい子」の育成を目指す活動を行うことができた。PYP・MYP認定校として建学の精神を具体的に10の学習者像として示し、生活・学習両面において日々の生活の中で取り組んだ。また、年間を通じて朝礼での理事長や学校長、先生方の話を通して、児童の意識の向上を図った。	A	・自己評価に同意
2	宗教指導	A	聖書の教えを基礎として宗教の授業を行い、朝礼や学級の活動を通して、日々の生活の中にも神様の存在を感じ生活することができた。宗教行事だけでなく、カトリックミッション校として発達段階を踏まえながら教育活動を行っている。サレジオ家族の全世界共通の目標であるストレンナ「ドン・ボスコの家族として、社会のよきパトロールになろう」を合言葉に、聖母祭や創立記念ミサ、クリスマス会、ドンボスコの集いなどを実施できた。	A	・自己評価に同意
3	教育課程	A	プライマリー(1~4年)は、基礎基本の徹底を図っている。探究学習では、PYPユニットプランナーを作成し、教科の枠を超えたテーマのもと主体的に問題を解決できるようにして、10の学習者像に近づけるようにした。読むとくメソッド、英検Jr、ウイークリーテスト等サレジオメソッドも取り入れ、語彙数を増やしたり、リスニング力を高めたり、学習の効果が現れるように工夫した。また、ミドル5・6年生では、MYPユニットプランナーを作成し、学習を行った。MYPカリキュラムや評価の仕方を全保護者に書面で配付し、全学年のユニットや評価を公開した。英語の時間数と内容を増やし、更に英語の力を伸ばす工夫を行っている。小論文メソッドも取り入れ、論理的思考が身につくようにした。PYP・MYPともに保護者勉強会を開催し、理解を図った。今後、更に各ステージとの連携を図ってきたい。	A	・自己評価に同意
4	評価・認定	A	一人ひとりの児童に寄り添いながら、丁寧に指導を行っている。プライマリーでは観点別に評価を行ったり、どのように学びが深められているか学習の過程を記述している。ユニットごとに総括的評価課題を設定し、学びの定着を図っている。ミドル5・6年では、MYPの評価の仕方を全学年のユニットで公開し、明確な評価規準と課題を先行提示した。またその結果をmanagebac上で確認できるようにした。英検Jr、テスト・読書診断指数、英検・漢検などの外部評価や自己評価も取り入れ、客観的に評価している。	A	・MYPに対する熱意は十分に伝わっていますがMYPの評価に対してはまだわかりづらいと感じます。また評価に納得できないという声も聞きました。 ・他の旧校を研修した際も感じたが、IB教育の評価については保護者世代の意識改革も必要と痛感した。その意味で勉強会は良い機会になると考える。
5	教科指導	A	教科で教えるべき知識とスキルを確実に身に着けるための授業と、その知識とスキルを使って思考・判断し、表現する授業を実施している。プライマリーの探究学習では、教科の枠を超え年間6つのユニット(単元)を設定し、セントラルアイデア(仮説)を立て、検証してきた。児童自身が主体的に学びに取り組んでいる。5・6年のMYPでは、教科の学習に力を入れ、全教科でユニットプランナーに基づき年間50時間以上の探究授業を実施できた。その結果、PYP・MYPともに深い学びにつながり、思考・判断・表現力が培われてきた。一人1台のiPadも活用し、学習の蓄積が可視化されるなど、すべての教科で思考力を伸ばすためにICT機器を使った。大型電子黒板やデジタル教科書等ICT機器を有効に使用しながら授業の質を向上させることに努めた。児童の言語認知を伸ばすために、更なる授業改善を考えている。	A	・自己評価に同意
6	授業研修	A	学年ごとに教員間のミーティングを毎週行い授業設計への理解を深めたり、全教職員で国際バカロレアについてより理解を深める研修を実施したり、実践につなげた。また研究授業を計画・実行し、効果を検証した。年2回の公開授業週間では各校種の授業をお互いに見せ合い、意見を交換することによって授業改善に努めることができた。また、PYPの集大成である4年生のエキシビションに向けて、教員が児童の探究をどうサポートしていったらよいか研修を行っている。学園が一貫校として、また国際バカロレア認定校として、今後は更に研修の方向性をより明確にしていきたい。	A	・自己評価に同意
7	学級経営	A	教員は学級の児童と共にいることを大切にし、子どもの心をもとめ取り組みを実践している。年2回の個別面談だけでなく、保護者と連絡を密にことり適切に対応している。学校だけでなく学年通信をはじめ、お知らせをWEBで配信し、全家庭にできるだけ早く情報を伝えるようにした。また「コードモン」を通して保護者からの連絡事項も素早く受け取ることができ、迅速に対応している。保護者と情報を共有するように心がけている。	A	・自己評価に同意
8	生活指導	A	毎月の生活目標を決め、教師が共通理解をもち、朝礼や朝の会等で大切なことを呼びかけている。プライマリーでは学習と生活は一体化されているので、教員は常にアシスタントを心掛け、日々の学習や生活の中で児童と向き合い取り組んでいる。児童に関することは、担任・主任・養護・教頭・校長で連携し、情報共有した。また、通学マナー等についても、集団下校グループを作り指導を行っている。JRの乗車マナーについては、何度かご指摘を受けた。集団下校グループでの繰り返し指導や、下校時JR草薙駅に教員が交代で立ち児童の安全を見守っている。	A	・自己評価に同意

R05年度学校関係者評価(小学校)

9	進路指導	児童の進路達成のために、適切な指導と学力養成が行われている。	A	児童や保護者との面談をもち、児童の将来を考えた進路指導を行っている。将来の夢をもち、具体的な将来像を持つことにより児童の学習意欲も上がっている。5年と6年時に中学校の説明やカレッジのコースについての説明を聞き、サレジオ中学校への理解も深めている。	A	・自己評価に同意
10	安全管理	児童の健康・安全を守るために、通学・防犯・保健の適切な指導や施設管理が行われている。	A	安全面では、登下校時に校舎の入り口で学生証をかざすことで、登下校時刻を保護者メールで配信し安全を確認している。また、登下校時には警備員を配置したり、ICカードによる門戸の管理を行い、安全管理体制を強化している。教員もJR草薙駅構内まで毎日送り、児童の安全面に配慮している。テニスコートまで避難する防災訓練を実施したり、セコムによる防犯教室をおこなったり、防災防犯についても注意を促した。また、「防災カード」をWEBアンケートを利用して作成し、情報を一元管理できるようにした。熱中症予防として、暑さ指数計による測定を行い、過度の運動がないように健康管理をおこなった。PMCの保健室が連携し、ステージを超えて児童の心身の健康のために努めている。	A	・登下校時に保護者へのメール配信、先生方のJR草薙駅までの見送りなど児童の安全を配慮してくださりととも安心して通わせることができます。 ・運動会の際に門扉が解放されていましたが、安全上問題ないのでしょうか？
11	校務分掌	教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って取り組んでいる。	A	全教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って任務を遂行している。各部ごとに連携を持ちながら取り組み、各分掌の部長がそれぞれ責任をもって運営をしている。IB教育研究所が設置され、IB理解と研究、連携が促進された。	A	・自己評価に同意
12	行事運営	校内外で行われる学校行事は教育目標に照らして十分にその役割を果たしている。	A	コロナが5類に移行したので、今年度は行事の内容などを検討し、コロナ前の行事を行うことができた。3年～5年の宿泊学習、スキー教室なども実施でき、サレジオ祭、運動会、クリスマス会なども多くの保護者の皆様と一緒に実施することができ、児童の喜びにつながった。6年生のオーストラリア修学旅行も4年ぶりに実施でき、ドミニカレツとの交流を持つことができた。6年生にとっては、心に残る貴重な体験となった。今後行事については内容を検討し、子供たちの発達段階に合わせて心に残る行事を実施していきたい。	A	・自己評価に同意
13	管理運営	学校組織の管理運営系統が明確で、役割分担や協力体制が整っている。	A	学年部長を中心に2学年ずつ組織され、報告・連絡・相談・指示を密に行い、保護者とも迅速に連携できる体制をとっている。また学年部長は管理職との連絡を密にとり、それぞれが協力して運営を行っている。また、幼・プライマリー・ミドル・カレッジの各ステージとの連絡も密に取り合い、学園として一本化した運営を行っている。	A	・自己評価に同意
14	施設・設備	本校の施設、設備は児童が生活する上で快適な環境として管理・整備されている。	A	プライマリー棟では最新設備が整った環境で、児童は快適な学校生活を過ごすことができている。電子黒板や背面側面のホワイトボード、後方の整理整頓できるロッカースペースなど、教室内の学習環境も整っている。トイレや水道も非接触型なので、衛生的に生活ができる。プライマリー棟とミドルをつなぐ通路は階段が長いですが、安全に行き来ができ、朝、業間、お昼休みと何度も運動場や遊具広場に行き遊ぶことができている。4号館もリフォームがされ、屋上・外壁防水工事が行われ、雨漏りがなくなった。ラーニングcommonsやコミュニティスペースも活用している。	A	・自己評価に同意
15	課外活動	放課後の課外活動を通じ、教師が常に児童と共にいるように努めている。	A	ジョイアクラブ、課外体育、スクールバンド等、通常の課外活動を行うことができた。放課後の補習学習なども行い、常に児童と共に教員が過ごし寄り添っている。また、放課後のレギュラー・ボ・スコラやイングリッシュ・ボ・スコラでは、家庭的な雰囲気のもと児童を預かり、共に学習したり、遊んだりしている。	A	・中高の部活のように毎日課外活動があり、幅広い分野の体験、勉強出来る環境で、放課後も学校活動が出来る環境はとて有り難く思っております。また子供の好奇心に沿って考えてくださると感じています。やらせてあげたい父兄はたくさんいると思います。仕事を持っている親御さんもたくさんいるので、ドボス以外の課外活動はとて有り難いです。ドボスの先生の数も多く、連絡事項も連携されておりとて安心してます。また、放課後やテスト前担任の先生、教科ごとの先生が勉強を見てくださったりと柔軟な対応感謝しております。放課後も先生方の目がいき届いており、安心して学校生活を送れていると感じております。
全般、総合評価			A	プライマリー棟での生活にも慣れ、コンセプトのもと教員も児童も取り組んでいる。今年度は4年ぶりにすべての行事を行うことができた。活気をもって学校生活を行うことができた。全児童にiPadを配布して4年目となる。ICTの活用が急速に進み、児童が常にiPadをどの教科でも学習道具の一つとして活用している。今後もICTの効果的な使用については模索していく。教員は物理的にも精神的にも常に子供達とアシステンツァ(共にいること)を心掛け、取り組んでいる。今後も教職員一同一丸となって取り組んでいきたい。国際バカロレアPYP・MYP認定校として探究学習を進める中で、国際的視野に立ち、異文化理解と尊重を通じて、より良い平和な世界の構築に貢献できる人の育成に取り組んでいる。建学の精神のもと、更なる努力を続けていきたい。	A	・新校舎ープライマリー棟にも慣れて、活発に生活している様子が各項目から読み取れます。この環境の中にあつて、ドボスコが大切にされた「アシステンツァ」に皆様が務めておられることの結果だと思えます。いろいろな活動の中にあつても常にともにいることを忘れずこれからもお励み下さい。

【評価点】

- A: 十分に成果があつた
- B: 成果があつた
- C: 少し成果があつた
- D: 成果がなかつた

【評価点】

- A: 十分に成果があつた
- B: 成果があつた
- C: 少し成果があつた
- D: 成果がなかつた

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

高評価をいただいたことに感謝いたします。建学の精神のもと、学校生活全般において更なる精進を重ねたいと思います。あるべき所に物も心もおくことができるように、プライマリー棟校舎のコンセプト「整理整頓と創造」を、今後も子供達と教師も一緒に心掛けていきたいです。学習面は勿論のこと、生活面においても一人ひとりに目を配り、きめ細やかな指導を今後も心がけていきます。教員は物理的にも精神的にも常に子供達とアシステンツァ(共にいること)を心掛け、教師と児童との信頼関係のもとに取り組んでいきます。また、国際バカロレアPYP・MPY認定校として、探究学習を進める中で国際的視野に立ち、異文化理解と尊重を通じて、より良い平和な世界の構築に貢献できる人の育成に、今後も取り組んでいきます。MYPの評価に関しては、引き続き動画配信や保護者会で事前説明を心掛け、少しずつ評価に関する理解が浸透するよう心がけたいと思います。